

御表小將であつた。男色の儀に付き江戸に於いて同役伊藤源右衛門政親等と申分をなした爲、正徳二年十二月十日御番頭に預けられ、翌年二月十五日知行を召放して流刑の宣告を受け、五月二日金澤に到着、六日越中五ヶ山に移された。

マツバラヤシキ 松原屋敷 金澤城内玉泉院丸の北、権現堂に至る間の曲輪である。慶長古圖にはこゝに桂巻隼人と記載してあり、葛巻隼人昌俊の舊第なることが知られる。名稱の由来は諸説あるが、古へ此の附近が松原であつたからであるとするのが正しからう。

マツブギヨウ 松奉行 大聖寺藩にて林務を董督するものを松奉行と稱し、定員二名であつた。加賀藩の山奉行に同じいけれども、この領内の山林は概ね松樹なるが故に此の名がある。配下に帳前役・曲尺巻役・山廻・山番があり、帳前役は帳簿を掌り、曲尺巻役は測量の事に當り、山廻・山番は山林を巡視した。

マツミヤソウエモン 松宮宗右衛門 父清右衛門は前田利長に仕へた。宗右衛門元和四年四百石を領し、後更に百石を加へた。子孫相繼いで藩に仕へる。

マツムラマゴサブロウ 松村孫三郎 丹羽長重の臣。祿八百石を受け、慶長五年八月前田軍と奮闘して創を得た。後前田利常四千石を興へて之を召抱へたが、遂に仕を致して去つた。

マツモト 松本 石川郡笠間郷に屬する部落。三州大路水經に手取川のことを叙して、元暦の頃は小上村なる今の橋邊を西流して、鶴來の成の方松本村の邊に落ちたと古老が傳へる。その川筋と見えて鶴來から松本に至る

間に島々の名があり、土地薄く、石地で下田であると記する。

マツモトキクサブロウ 松本菊三郎 能美郡一針の醫師山越賢了の子。製陶・陶畫を學び、出で、攝津三田の九鬼侯の御庭焼に従ひ、又京都に赴きて尾形周平等に學び、弘化元年歸りて一針に業を創め、次いで小松の松屋佐兵衛の家を襲ぎ、嘉永初年齊九谷を改良し、文久・元治の交遊代寺窯を改造して、古九谷の再興に没頭し、後之を本江に移し、又八幡に新窯を開いた。明治の後松本氏に改め、五年家を子佐平に譲り、隠栖して曬業と號し、二十二年七月七十一歳を以て歿した。

マツモトサダマサ 松本貞昌 通稱喜市郎。喜兵衛・市郎右衛門・八兵衛。初め父喜太夫の遺知六十石を襲ぎ、元祿十四年御歩に任じ、享保九年御細工小頭として二十石を加へ、寶曆六年淨珠院御用人として組外に進み、十三年能美郡代官となり、明和三年七十六歳を以て歿。その系は孫八兵衛の時に斷絶した。

マツモトサヘイ 松本佐平 松本菊三郎の子、松雲堂と號した。嘉永四年小松に生まれ、陶業を父に習ひ、後研究發明する所多く、明治五年家を繼いで良工の名を得た。大正七年九月七日歿、享年六十八。

マツモトシヨウセン 松本證専 金澤の俳人。名は千彦、早苗庵二代を稱し、森下町に莫庵齋を營み、明治三十三年六月十二日四十四歳を以て歿した。

マツモトチヨウ 松本町 ↓ホウネンジモンゼン 法然寺門前。

マツモトハクカ 松本白華 石川郡松任眞宗東派本誓寺の僧。諱は嚴護、字は白華。梅

隱・西塘・林宗・孤松・古松庵と號した。漢學を廣瀬旭莊に、宗學を香山院龍温に學び、安政三年寺務を襲ぎ、明治五年九月石川舞台と共に本願寺法主大谷光瑩に隨うて歐洲に遊び、十年九月外國布教師として支那に赴き、十二年六月歸朝後は自坊に在つて教學を事とした。大正十四年四月僧正に補せられ、十五年二月廿五日八十九歳を以て寂。法諱白華院。

マツモトハチベエ 松本八兵衛 天明六年父四郎右衛門の遺知八十石を受けたが、寛政四年三月五日一門御預となり、次いで公事場揚屋に收容せられ、五年越中五ヶ山に流された。

マツモリジンジャ 松守神社 珠洲郡引砂に鎮座し、今松神社と稱する。式内等舊社記に、『松守神社。三箇郷引砂村鎮座。稱松守宮。』と見え、能登名跡志には、『引砂村氏宮は、松森の宮とて、山より出現ありし也。本地虚空藏菩薩也。』と記する。

マツモリセイハ 松守青境 能美郡小松の俳人。通稱半二。松の舎と稱し、明治四十一年五月十日六十二歳を以て歿した。

マツモン 松門 藩政の時金澤上口・下口の町端路傍に松樹一株があつて、之を松門と稱した。上口の松門は泉新町國造神社の向かう町家の前に植ゑ、下口の松門は春日町と大樋町の境にあつた。これは或時代に於ける町地と郡地との境界で、藩侯の參勤する時、之より内は供廻の行列を立て、外では行粧を崩す例であつた。

マツモンバシ 松門橋 金澤橋梁記に『松門の橋、大樋に有之。』と記載し、春日町と大樋町との界にある小橋であつた。

マツヤマ 松山 江沼郡能美境の中に屬し、無高の地であつた。この領山の半腹に、昔盜賊松山雅樂助を釜煎の刑に處した所であると傳へて、釜煎場石といふのがあつた。

マツヤマイン 松山石 江沼郡松山に産する石材。石英粗面岩質の凝灰岩で、質は全く粗面、帶青・帶黄又は帶緑色火山灰の凝結から成り、硬い。

マツヤマガマ 松山窯 江沼郡松山の陶窯。文久中山本彦左衛門の創始する所で、吉田屋窯の製に倣うたが、久しからずして廢した。

マツヤマゴベエ 松屋孫兵衛 ↓カイゾオタヤ 海津御旅屋。

マツヤマサコン 松山左近 官地論長享二年高尾城攻の條に、宮權政親方の大手の大將に松山左近がある。

マツヤマジヨウ 松山城 江沼郡松山に在つた。江沼志稿に、松山村の土俗に、城山といふ所ニテ所あつて、本丸を大山といひ、南の方にある山を御亭山といふ。大山には甄郭の遺狀を存し、徳山五兵衛がこゝに居たと傳へ、又坪坂伯耆初め之に居り、後金澤城に移つたともある。北陸七國志に、永祿十年十二月加越和睦の時破壊した一向一揆方の兩城を柏野・杉山とあるが、後者は松山の誤である。又山口記には、慶長五年八月朔前田利長が大聖寺に向かうた際、松山の古城に本陣を取つたと記される。

マツヤマスケエモン 松山助右衛門 横山長知の家士、祿二百五十石、本國越前。初め朝倉氏に仕へ、次いで前田利秀に來仕して八王子役に首一を得、又長知に轉じて大坂の後役には圖書丸に先登合槍し、前田利常から白